

毎月11日掲載

### 第71回ワークショップ @宮城・大和 吉岡

## むすび塾

町危機対策室長の蜂谷祐士さん(53)は、周囲が水没して役場が孤立した状況を説明。

組合事務所では、助役の佐野英俊さん(66)が建物に残る浸水跡を紹介。「床上15センチまで水が来て、コンヒューター機器類が水没した。予測を上回る被害だった」と語った。「あさひな」店長の蜂谷勝美さん(52)は「泥を含んだ雨水を店外へ出すのは大変だった」と話した。

# 浸水地訪ね対策考える



浸水現場で学んだことや水害への備えを防災マップに書き込んでもらった宮城県大和町の吉岡小

## 水害教訓にマップ作り

日本損害保険協会(東京)の安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」を活用して実施。児童は4班に分かれ、現場4カ所に向かった。

善川沿いに広がる水田で、地元の農業本田昭彦さん(52)は「川の堤防の高さがぎりぎりまで水位が上がったと危うい状況だったことを説明。周囲から集まった雨水がたまり、田んぼが湖のように冠水した」と振り返った。この日は朝から雨が降り続き、子どもたちは、坂道になっている道路脇の排水路を雨水が勢いよく流れる様子を観察した。

吉岡小の吉岡川沿いにある黒川地域行政事務組合事務所(2日に移転)と農産物販売店「JAグリーンあさひな」も訪問した。

川底の掘削や遊水池の新設といった水害対策も紹介した。児童たちは各訪問先で、こんな高さが水が来たんだと驚いた様子。「天気予報をチェックして、早めに高い所へ避難することが大切」と指導を受けた。

学校に戻ると、班ごとに防



宮城豪雨で浸水した学校近くの水田を見学する児童ら。水位が自分たちの身長の数倍以上に達したことを本田さん(右)から聞き、意識を高めた

## ■むすび塾に参加して



水田を訪れた(前列左から)佐藤檀君(8)、小川明日香さん(8)、大和田唯香さん(8)、鈴木みらいさん(8)、(後列左から)千葉雄大君(9)、伊藤大翔君(8)、安田大成君(9)



大和町役場を訪れた(前列左から)渡辺小雲さん(8)、松田唯唯君(9)、小野宏一朗君(8)、(2列目左から)尾形颯希さん(9)、伊藤龍太郎君(9)、佐藤唯君(9)、後列左から)瀬戸寧枝さん(9)、加藤綾さん(8)、菅原悠妃さん(9)



黒川地域行政事務組合事務所を訪れた(前列左から)庄司瑛斗君(9)、立田泰盛君(9)、小林音々花さん(8)、(2列目左から)今野将汰君(8)、佐藤唯君(9)、玉野咲良さん(9)、後列左から)小川爽太君(9)、鈴木耕乃さん(9)、高乃愛さん(8)



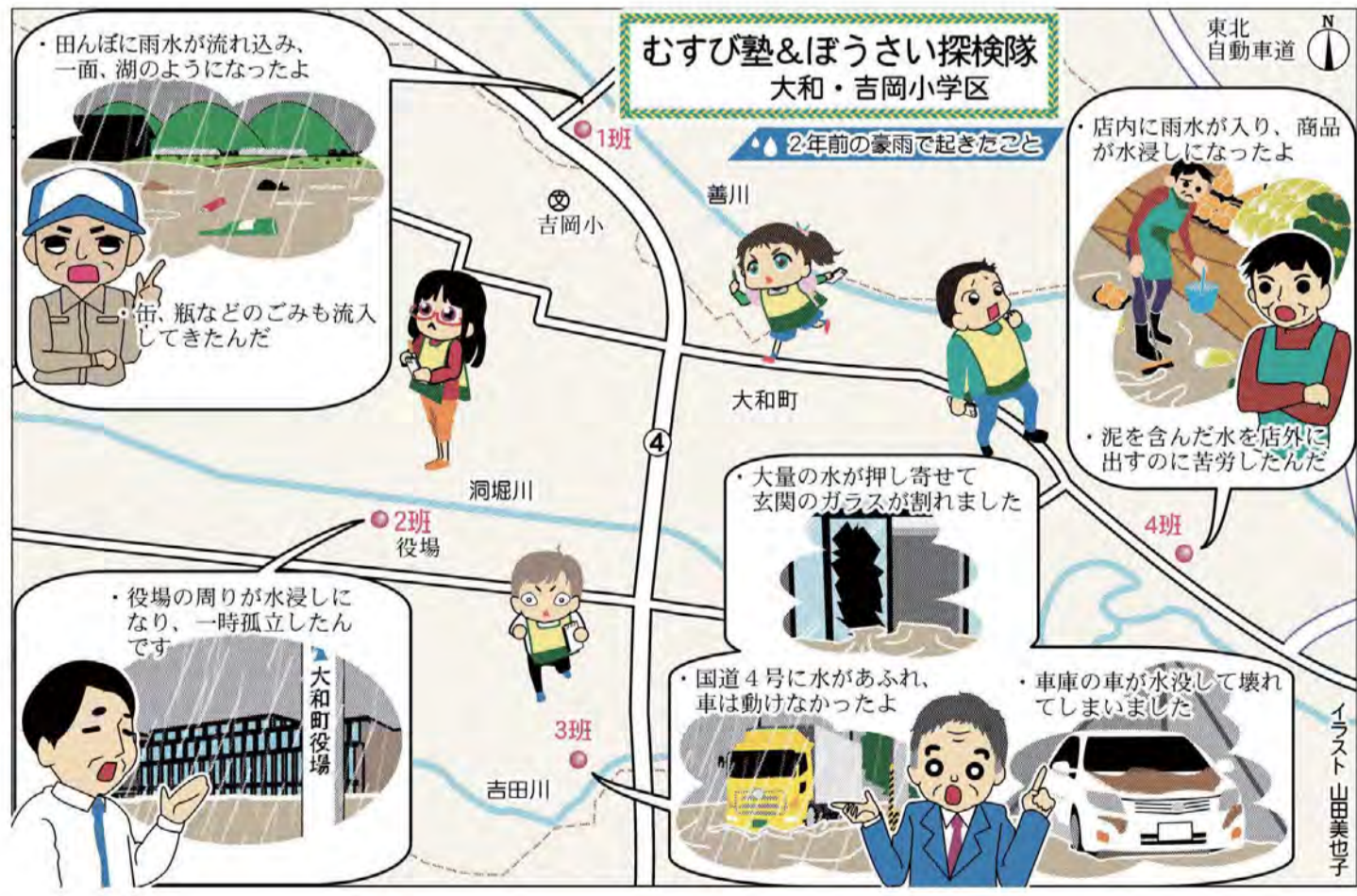
JAグリーンあさひなを訪れた(前列左から)瀬戸月海さん(9)、結城海悠さん(9)、遠山貴志さん(9)、(2列目左から)我妻祐汰君(9)、小俣敬輔君(9)、後藤悠汰君(9)、(後列左から)名倉久志君(9)、柏木陽名さん(8)、佐々木柚奈さん(8)

## 豪雨で吉田川など越水



大和町吉岡地区は町中心部に位置し、江戸時代初期に奥州街道の宿場町「吉岡宿」として栄えた。2016年公開の映画「殿、利息でござる!」は吉岡宿で撮影された史実に基づく。地区内では北に善川、南に吉田川があり、度々水害に見舞われてきたため、町では築堤や調整池整備などによる対策を講じていたが、24時間雨量が300mmを超えた15年9月10、11日の豪雨では吉田川などが複数箇所を越水した。

町中心部に潮流が押し寄せ



## 親子で情報を共有して

2年前の水害時、どこまで水があふれ、どんな大変なことがあったのか。当時小学1年生だった子どもたちが、体験談を聞きながら実際に街を歩いた意義は大い。自然災害の怖さを知り、次にはまた大雨が降った時、どうしたら被害を小さくできるかを考えることにつながるから。

体験談を聞く中で、洪水は単に水位が上がるだけでなく、水の流れる力が大きいため、子どもに伝える。それは親の責任になる。



保田 真理さん(61)

東北大災害科学国際研究所講師

## ■専門家から

### 日本損害保険協会の「ぼうさい探検隊」

「ぼうさい探検隊」は日本損害保険協会が2004年に始めた事業。小学生らのグループで地域を歩き、防災や交通安全などに役立つ施設や危険箇所を調べ、マップにまとめる。マップコンクールを年1回実施し、全国から作品を募り優秀作を表彰。探検隊の活動マニュアルも用意し、必要な文具キットを無償提供している。

河北新報社は協会の協力を得て年1、2回、むすび塾に探検隊のノウハウを取り入れて開いている。探検隊の詳細は協会のウェブサイトに掲載。連絡先は日本損害保険協会啓発・教育グループ03(3255)1215。

東日本大震災の体験を振り返り、専門家と共に防災の教訓や避難の課題を語り合ってみませんか。町内会や学校、職場など10人前後の小さな集まりが対象です。開催費用は無料。随時、開催希望を受け付けています。連絡先は河北新報社防災・教育室022(211)1591。

次回のむすび塾は28、29の両日、高知新聞社と共催し、高知県安芸市で開きます。